

大雪に関して 段階的に発表される防災気象情報

大阪管区気象台

大雪に関して段階的に発表される防災気象情報



情報発表のタイミング

社会的に影響を与える降雪が予想される場合は、段階的に情報を発表します。

2週～6日前

「早期天候情報」発表

大雪に関して、近畿日本海側と山陰の地域を対象に注意を呼びかけます。
発表日（原則として月・木曜日の14時30分頃）の6日先から14日先までを対象として、5日間降雪量が「かなり多い」となる確率が30%以上と見込まれる場合に発表します。
※降雪量が「かなり多い」とは、その時期にその地域で10年に1回程度の降雪量。

5日前

「早期注意情報（警報級の可能性）」発表（明後日以降5日先まで）

警報級の現象となる可能性を、「高」「中」「－」で発表します。

3日程度前

「気象情報」発表

強い冬の気圧配置などにより、社会的に影響を及ぼす降雪が予想される場合に発表します。

1、2日前

「早期注意情報（警報級の可能性）」発表

警報級の現象となる可能性を、「高」「中」「－」で発表します。

説明会・記者会見開催
大阪府の場合、平地の広範囲で警報級を見込んだ場合

「気象情報」発表

多雪地帯で大雪警報基準以上の降雪が予想される場合、または普段は雪が少ない地域で大雪注意報基準以上の降雪が予想される場合に「大雪に関する気象情報」を発表します。また、普段は雪がほとんど積もらない地域での積雪など、社会的に影響を及ぼす降雪が予想される場合は「雪に関する気象情報」を発表します。

数時間前

「警報、注意報」発表

警報・注意報それぞれの基準を超える大雪が降ると予想される場合に大雪警報・注意報を発表します。雪を伴って風が強く、風雪により交通障害等が発生するおそれがある場合は暴風雪警報・風雪注意報を発表します。

大雪

「一層の警戒を呼びかける情報」発表
大雪により重大な災害が差し迫っている場合

数十年に一度の降雪量となる大雪

「特別警報」発表

府県程度の広がりをもって50年に一度の積雪深となり、かつ、その後も警報級の降雪が丸一日程度以上続く予想される場合に大雪特別警報を発表します。

大阪府の警報・注意報

大雪注意報	平地 12時間降雪の深さ 5cm	風雪注意報	陸上 12m/s 海上 15m/s
	山地 12時間降雪の深さ 10cm		雪を伴う
大雪警報	平地 12時間降雪の深さ 10cm	暴風雪警報	陸上 20m/s 海上 25m/s
	山地 12時間降雪の深さ 20cm		雪を伴う

暴風雪特別警報	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪特別警報	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

- ▶ 雪を要因とする特別警報（大雪特別警報）は、どのような災害が対象か
⇒ 大雪特別警報に該当する主な事例は、「昭和38年1月豪雪」「昭和56年豪雪」等
- ▶ 大雪特別警報はどのようなときに発表されるのか
⇒ 大雪特別警報は、数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合で、**府県程度の広がりをもって50年に一度の積雪深**となり、かつ、その後も**警報級の降雪が丸一日程度以上続くと予想**される場合に発表

府県予報区	地点名	50年に一度の積雪深(cm)	既往最深積雪深(cm)
滋賀県	彦根	69	93
滋賀県	柳ヶ瀬	277	249
滋賀県	今津	111	105
滋賀県	米原	-	83
京都府	舞鶴	82	87
京都府	京都	18*	41
京都府	峰山	129	110
京都府	美山	78	74
大阪府	大阪	9*	18

府県予報区	地点名	50年に一度の積雪深(cm)	既往最深積雪深(cm)
兵庫県	豊岡	130	186
兵庫県	姫路※	-	19
兵庫県	神戸	5*	17
兵庫県	洲本※	-	18
兵庫県	香住	134	140
兵庫県	宍和野高原	-	205
兵庫県	和田山	69	80
奈良県	奈良	17*	21
和歌山県	和歌山	6*	40
和歌山県	潮岬※	-	5



「50年に一度の積雪深」の地点別一覧（令和2年10月29日現在）
 注1）※が付いている地点は、現在積雪深の観測を行っていないもので、50年に一度の値は“-”としている。
 注2）データ不足のため、50年に一度の値が算出できない地点は、値を“-”としている。
 注3）*が付いている地点は、積雪深ゼロの年もあり、50年に一度の値の信頼性が低いため、参考値として扱う。
 注4）50年に一度の値は過去の観測データから推定した値。
 注5）大雪特別警報は、府県程度の広がり50年に一度の値となる現象を対象。個々の地点で50年に一度の値となることのみで特別警報となるわけではないことに留意。

大雪に対して一層の警戒を呼びかける情報

【目的】

平成30年2月の福井県の大雪による災害を踏まえ、降雪が大雪警報の基準を大幅に上回る場合や普段雪が少ない地域に広範囲に降雪が予測される場合に、気象台の危機感を関係機関や住民に効果的に伝えるため。

【発表目安】

- 少雪地：平地の広い範囲で警報基準を超えると予想される場合
(12時間降雪量が広域で10センチ（大阪・兵庫）～20センチ（京都）程度)
- 多雪地：警報基準を大幅に超える予想がある場合
(警報基準のおおむね1.3倍程度)

※少雪地：大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山
 多雪地：京都、兵庫、滋賀

【発表タイミング】

- ・降雪の始まる半日～1日程度前
- ・発表目安を上回る可能性が高まった場合

【記述例】

- ・○○の平地では、○年○月○日以来の（または、これまでに経験のない）記録的な大雪となるおそれがあります。
- ・積雪が多くなっており、○○ではこれまでの観測記録●センチに迫るほどの大雪です。
- ・警報基準を大幅に超える降雪量が予想されます。

1. 目的

住民生活に重大な影響を及ぼすような気象現象や、大規模な水災害・雪災害等の自然災害の発生が近畿地方において予想されるなどの場合に、近畿地方整備局と大阪管区気象台が共同で会見を実施し、被害の防止・軽減を図ることを目的としています。

2. 実施の目安

(1) ケースA (大阪管区気象台発議を想定)

ア 過去に同地域に大きな災害をもたらした時と同程度の大雨※¹が予想される場合

イ 大雨特別警報が発表された場合

ウ **重大な交通障害を伴う大雪が予想※²される場合**

注：大型連休・盆・年末年始等では社会的な影響が平時より大きくなることを考慮する

※¹ 特別警報級の雨が予想される場合

※² 気象台による雪への「一層の警戒の呼びかけ」が予想される場合

(2) ケースB (近畿地方整備局発議を想定)

ア 河川の氾濫により大規模な浸水が予想される場合

イ 大雨特別警報から警報への切替後にも河川の増水が予想される場合

ウ **大雪による自然災害により、大規模な交通規制を実施することが予想される場合**

(3) ケースC

ア その他、両者協議の上必要と認められる場合

雪の観測情報(気象庁ホームページ)

雪の状況 https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/snc_rct/index_snc.html

【気象庁ホーム】⇒【各種データ・資料】
⇒【最新の気象データ】⇒【雪の状況】

次の分布図を表示できます。

- ・積雪の深さ(現在の値)
- ・積雪の深さ(現在の値) 平年比
- ・24時間降雪量(現在の値)
- ・日最新積雪
- ・日最新積雪平年比 など

【備考欄表示例】

昨冬までの1位の値以上

昨冬までの10月の1位の値以上

昨冬までの1位の値以上 (10年未満)

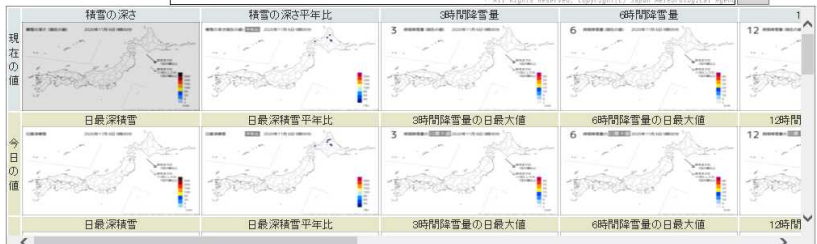
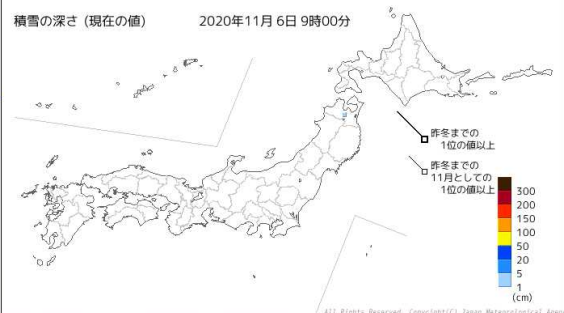
昨冬までの10月の1位の値以上 (10年未満)

積雪の深さ(現在の値)



- ▶ データ(一覧表)
- ▶ ランキング(上位10地点)
- ▶ 観測史上1位の値 更新状況
- ▶ 地方別の情報
- ▶ 解説

右図は、積雪の深さを地図上にプロットしています。



▶ 日最深積雪 ▶ 3時間 ▶ 6時間 ▶ 12時間 ▶ 24時間 ▶ 48時間 ▶ 72時間 ▶ 昨日の累積降雪量 ▶ ページ先頭 ▶ 解説

都道府県	市町村	地点	現在の積雪の深さ		日平年値	備考	昨冬までの観測史上1位の値		昨冬までの11月の1位の値		統計開始年
			(cm)	平年比 (%)			(cm)	年月日	(cm)	年月日	
京都府	京丹後市	峰山(ミネヤマ)	///	///	0	110	2011/01/31	4]	2008/11/20	1981年	
京都府	舞鶴市	舞鶴(マイヅル)*	///	///	--	87	2012/02/02	18	1970/11/30	1947年	
京都府	南丹市	美山(ミヤマ)	///	///	0	74]	1982/01/30	1	1983/11/27	1981年	
京都府	京都市中京区	京都(キョウト)*	///	///	--	41	1954/01/26	2	1938/11/13	1886年	

現在の雪

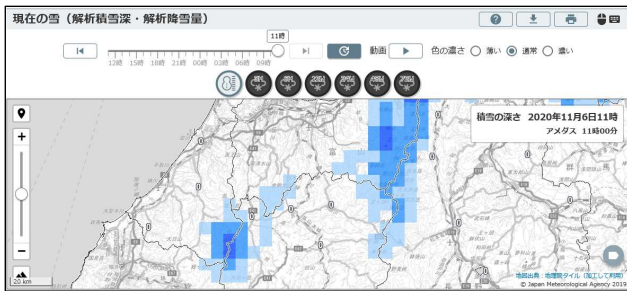
<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/snow/jp/#zoom:7/lat:30.628459/lon:133.033447/colordepth:normal/elements:snowd>

「現在の雪(解析積雪深・解析降雪量)」

気象庁ホーム → 防災情報 → 現在の雪(解析積雪深・解析降雪量)
(現在の雪(解析積雪深・解析降雪量)の状況のページへ)

【説明】

1時間毎に推定した現在の雪の深さと降雪量の分布を表示しています。
降雪量については、3時間、6時間、12時間、24時間、48時間、72時間をご覧いただけます。
図を拡大すると、アメダスで観測された積雪の深さや降雪量が合わせて表示されます。欠測となった地点は表示されません。



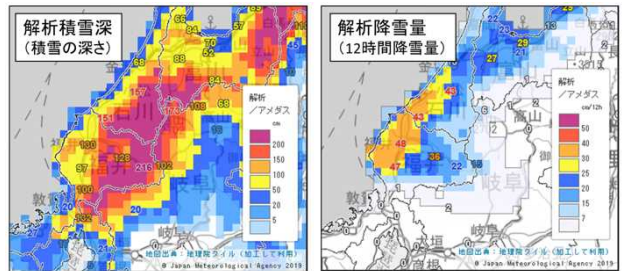
「現在の雪」ページでは、積雪・降雪が多くなっている地域を把握できます。
「現在の雪」ページでは、雪の状況を道路・鉄道等の地図情報と重ね合わせて見ることができます。

解析積雪深・解析降雪量

解析積雪深・解析降雪量は、積雪の深さと降雪量の実況を1時間ごとに約5km四方の細かさで推定するものです。解析積雪深・解析降雪量を利用すると、積雪計による観測が行われていない地域を含めた積雪・降雪の面的な状況の把握できます。

利用上の留意点

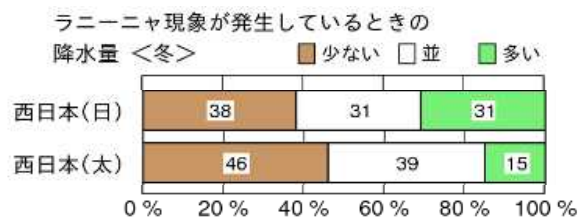
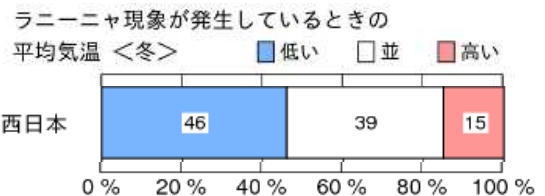
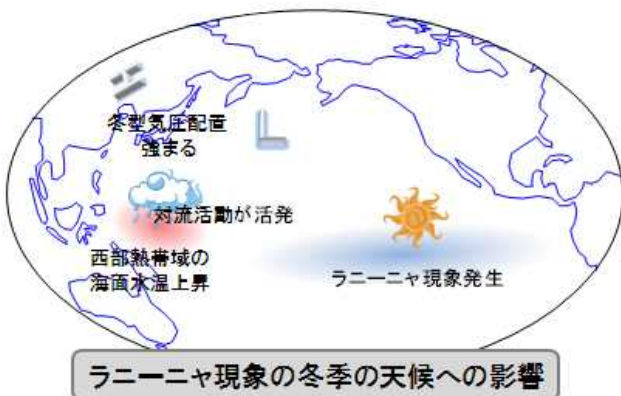
- ・解析積雪深・解析降雪量は約5km四方の平均的な値であるため、積雪の深さや降雪量のおおまかな分布状況を把握するために利用してください。
- ・約5km四方の平均的な解析積雪深・解析降雪量の値は、個別地点における観測値と必ずしも一致しません。
- ・風が強い時は雪が風に流されるため、また、地上の気温が約1～3℃の時は雨雪の判別が難しいため、解析積雪深・解析降雪量の精度が低下する可能性があります。



解析積雪深と解析降雪量の描画例(平成30年2月6日12時、日本時間)
数字はアメダスの積雪計の観測値。単位はセンチメートル。

ラニーニャ現象発生時の天候の特徴

ラニーニャ現象が発生すると、西太平洋熱帯域の海面水温が上昇し、西太平洋熱帯域で積乱雲の活動が活発となります。この影響により、上空の偏西風は大陸上では平年より北を流れ、日本付近では南に蛇行して、寒気が流れ込みやすくなり、冬型の気圧配置が強まって、気温が低くなる傾向があります。



※統計データ：1958年～2012年

冬の天候に影響の大きい北極振動(北極から北半球中緯度地域への寒気の流れ込みやすさと関係している)を早い段階で予測することは困難なため、常に最新の1か月予報等をご覧ください。

◆「早期天候情報」(2週間~6日前)

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/souten/>

◆「早期注意情報(警報級の可能性)」(明後日以降5日先まで/明日まで)

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/keika/index.html>

◆「気象情報」(3日程度前/1日前)

<https://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/>

◆ **特別警報、警報、注意報**

<https://www.jma.go.jp/jp/warn/>

◆ 天気予報 : <https://www.jma.go.jp/jp/yoho/>

◆ 週間天気予報 : <https://www.jma.go.jp/jp/week/>

◆ 天気分布予報 : 降雪量

<https://www.data.jma.go.jp/fcd/yoho/wdist/jp/#zoom:7/lat:30.632737/lon:133.034509/colordepth:normal/elements:s3>